

公共図書館で知的障害者と楽しむ マルチメディアDAISY図書

吹田市立千里山・佐井寺図書館
加藤ひろの

吹田市立図書館の 障害者サービス

吹田市立図書館では、1969年に点訳図書・音訳テープ図書の貸出を開始し、1993年に対面朗読サービスを始めるなど、視覚障害者へのサービスを中心として障害者サービスを実践してきました。

視覚障害者以外を対象にしたサービスとしては、1993年に肢体不自由者へも音訳図書の貸出を可能とし、2014年にLLブックコーナーを設置、同年マルチメディアDAISY図書の利用体験・貸出を開始、2017年には墨字図書・雑誌の郵送貸出を開始し、その他にもリーディングトラッカーなどの支援機器・用品設置などに取り組んできました。

2016年度から2018年度には、科学研究費助成事業「公共図書館における知的障害者への合理的配慮のあり方に関する研究」*注に実践協力図書館として参加しています。この研究で想定しているのは、おもに大人の知的障害者です。

今までのマルチメディアDAISY 図書の利用

当館の所蔵は、ほとんどが公益財団法人伊藤忠記念財団から寄贈された「わいわい文庫」のシリーズです。現在の所蔵数は、著作権制限があるもの（障害者のみ利用可能）が26枚、著作権制限のないもの（誰でも利用可能）が7枚です。吹田市立図書館に所蔵のないものは、利用者から希望があれば、大阪府立中央図書館や大阪市立中央図書館から取り寄せたり、個人会員となってダウンロード利用ができる機関を紹介したりしています。

マルチメディアDAISY図書の利用体験・貸出は、2014年7月に千里山・佐井寺図書館で開始しました。2010年9月と2014年10月には、マルチメディアDAISY図書体験会も実施しています。2016年12月からは、千里山・佐井寺図書館以外も含む、市内全館で利用体験と貸出受付が可能となりました。

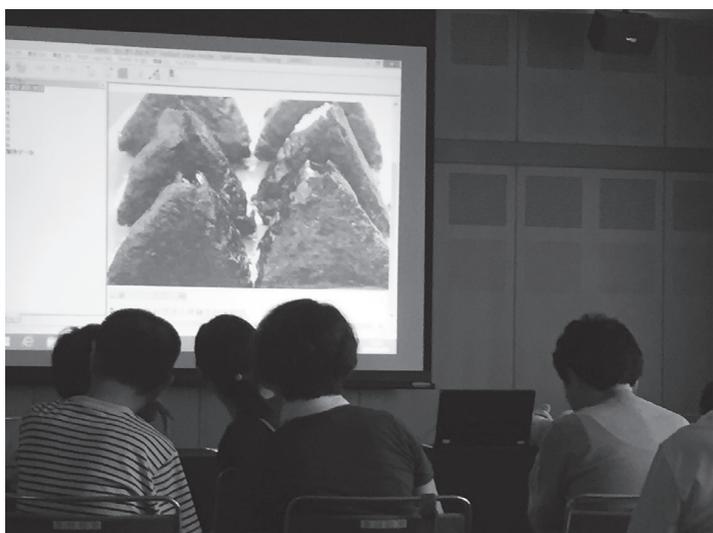
いままでに、知的障害者、脳機能障害者、地元地域FMの取材者、社会福

祉協議会の方、支援学級の先生、視覚障害児に関わるボランティアの方などが利用されました。

支援学級の先生からは、「非常に役立つ。子どもが利用を大変楽しみにしている」とおっしゃっていただきました。

図書館体験ツアーで、知的障害者とマルチメディアDAISY図書を楽しむ

「公共図書館における知的障害者への合理的配慮のあり方に関する研究」の一環で、2017年11月30日に中央図書館、2018年6月29日に千里山・佐井寺図書館、同年9月27日には再び中央図書館で、知的障害者の通所施設の利用者を招いた図書館体験ツアーを実施しました。その際、プログラムの一つとしてマルチメディアDAISY図書をスクリーンに映して再生し活用しました。



体験ツアー全体のプログラムや使用するコンテンツは、毎回作業所の職員と打合せをして決めていきました。まず、小さめの部屋で15分から30分ほどLLブック、マルチメディアDAISY図書、絵本の読み聞かせなどを楽しんでもらい、その後、10分から20分くらい館内を自由に閲覧する時間も取るといったものです。



2017年11月には、中央図書館のすぐ向かいにある「さつき障害者作業所」の方々をお招きしました。この日には、障害の程度は軽い方を中心に、利用者11人、作業所職員5人が参加されました。

利用者は、わいわい文庫の『おにぎり おむすび』の「おにぎり おむすび」というかけ声に合わせて声を出したり膝をたたいたり、おにぎりの具材を推測して、当たると手をたたいて喜んだり、夢中になっておられました。



2018年6月には、千里山・佐井寺図書館の近くにある「ワークセンターくすの木」の方々をお招きしました。参加は利用者が12人、作業所職員が7人でした。個人差がありますが、当日参加された方は障害の重い方や肢体不自由との重複障害の方も多く、車いす使用の方が5名、全盲の方もいらっしゃいました。言葉での意思表示がむずかしい方も多く、表情での意思表示もむずかしい方もありました。

この日も『おにぎり おむすび』を使用しました。事前打ち合わせの際に作業所職員に再生して見ていただき、「これならリズムや言葉の繰り返しがあり、全盲の方も含めて多くの利用者が楽しめそうだ」と助言をもらっていました。

体験ツアー当日に再生すると、作業所職員の方々が手拍子を取ったり、「何かな?」「うめぼしやな」など丁寧に利用者一人ひとりに声かけをされ、利用者もそれに応えて手拍子をうったり声を出したりと楽しまれていました。

後日作業所職員から「食べ物を題材にした絵本も身近なのでよく見ていました。音楽で心地よいテンポでリズムとして耳にはいい、視覚的な映像と、文章でも見られて、普段本だけでは楽しめづらい方々も一緒に題材を楽しむことができました」と感想をいただきました。

2018年9月の中央図書館での体験ツアーには、さつき障害者作業所から利用者9人、作業所職員3人が参加されました。

この日には『どれを食べたかな』を使用しました。次第に盛り上がり、正解が出たり、「うめぼし」の場面では「すっばい!」「おにぎり!」との声もあがったりして、上映後には自然と拍手が起こりました。

体験ツアーには、利用者から「楽しかった」「良かった」、作業所職員から「本とじっくり関わることがないので、いい経験になった」などの感想をいただき、好評でした。

図書館に来館しづらいと思われる知的障害者も多いと思いますが、障害の軽い方も重い方も、さまざまな方法で図書館でのプログラムや資料を楽しんでもらえることが、この体験ツアーを行ったことで、改めてよくわかりました。

マルチメディアDAISY図書の利用を広げる方法の一つとして、今後も継続

してこうした体験ツアーに取り組んでいけるとよいと感じています。

今後の課題

マルチメディアDAISY図書は、まだまだ利用が少ない状況です。当事者の周りの人（先生、NPOなど）の利用体験希望はあったものの、その後の当事者の利用が広がっていません。当事者の利用につながるようなPRも必要です。PRにあたっては、市内の支援学校、支援学級、作業所などの施設、知的障害者などの保護者の会や、関連するNPOなどとの連携を大切にしていきたいと考えています。

コンテンツについて、わいわい文庫以外のものも増やしていくことも課題のひとつです。

また、個人でパソコンやタブレットをもっていない方や、購入しにくい方のために、タブレットの貸出や操作体験が、利用者の身近にある市立図書館でできるようにしていけたら、もっと利用を広げられると思われます。

*注) JSPS科研費 JP16K00453「公共図書館における知的障害者への合理的配慮のあり方に関する研究」(研究代表者 藤澤和子)

